

〔資料〕

岐阜県内過疎地域における就業看護職者数の現状

藤澤 まこと¹⁾ 普照 早苗¹⁾ 北山 三津子¹⁾ 平山 朝子²⁾

The Number of Nursing Staff at the Depopulated Area in Gifu Prefecture

Makoto Fujisawa, Sanae Fusho, Mitsuko Kitayama, and Asako Hirayama

はじめに

岐阜県は、平成13年度現在14市・55町・30村から成り、このうち27町村（27.3%）が過疎地域自立促進特別措置法に基づく「過疎地域」である（以下、過疎地域とする）。本学では、平成13年度看護実践研究指導事業として、岐阜県内における過疎地域診療所の看護活動の質向上のために、方策の検討をすることを取り上げている。本報告では、県内全体を視野に入れて、看護職の就業先現況を確認し、既存の資料による数量的分析を中心にして、過疎地域の看護職の分布という視点から、その特徴をとらえたい。

I. 方法

1. 過疎地域町村の構成

平成12年4月時点での県内過疎地域は、図1に示した27の自治体である。これらの町村の人口は83,810人であり県全体の3.9%を占める。その27町村の中で最大人口は神岡町の11,568人で、最小人口は藤橋村の502人で、平均人口は3,104人である。また過疎地域の面積は4998.17km²であり県全体の47.2%を占めている。27町村の中で最大面積は上宝村の475.12km²で、最小面積は串原村の38.22km²で、平均は179.74km²である。

注) 過疎地域自立促進特別措置法（平成12年4月）に基づく過疎地域とは、次に掲げる要件に該当する市町村の区域をいう。（1）3年間の財政力指数が0.42以下かつ（2）①25年間の人口減少率が19%以上、または②35年間の人口減少率が30%以上かつ高齢者比率（65歳以上）が24%以上、または③35年間の人口減少率が30%以

上かつ若年者比率（15歳～29歳）が15%以下であること。

2. 調査項目

岐阜県下の自治体を過疎地域自治体、過疎地域以外自治体の2区分にし、また人口規模別・面積別に細区分し、以下の項目を調査する（以下、過疎地域以外自治体を、それ以外の地域と表現する）。

- 1) 看護職者数の分布：過疎地域27町村別看護婦士・准看護婦士・保健婦士・助産婦数。
- 2) 医療・保健・福祉施設の種別現状：（1）過疎地域とそれ以外の地域における看護職者の就業する施設数、（2）自治体の人口規模別施設数、（3）自治体の面積区分別施設数。
- 3) 就業看護職者数：（1）過疎地域とそれ以外の地域における施設の種別に見た看護職者数、（2）人口区分別施設種別に見た看護職者数。
- 4) 過疎地域とそれ以外の地域における施設の種別に見た看護婦士・准看護婦士の構成割合。

3. 資料（表1）

表1 使用した資料の一覧表

使用した事項	資料名
①人口・面積	・ぎふ県勢要覧2001（岐阜県知事公室統計調査課編、岐阜県統計協会刊行）
②看護職者数	・市町村別・医療施設別従業者数（県医療整備課より資料提供を受けた）
③医療・福祉等就業施設数	・2000年看護職員需給状況調査（県医療整備課より資料提供を受けた） ・平成12年病院名簿（県医療整備課より資料提供を受けた） ・社会福祉施設等名簿（平成11年厚生省大臣官房統計情報部編、厚生統計協会刊行）

1) 岐阜県立看護大学 地域基礎看護学講座 Community-based Fundamental Nursing, Gifu College of Nursing

2) 岐阜県立看護大学 学長 President, Gifu College of Nursing

使用した資料は、表1のとおりである。

4. 分析方法

- 1) 過疎地域とそれ以外の地域とを比較検討した。
- 2) 自治体を人口規模別(3千未満, 3千～5千未満, 5千～1万未満, 1万～2万未満, 2万～3万未満, 3万以上)に区分し, 施設数・看護職者数を比較検討した。
- 3) 岐阜県の可住地面積率を考慮し, 面積50km²別(50未満, 50～100未満, 100～150未満, 150～200未満, 200～250未満, 250以上)に区分し, 施設数を比較検討した。

II. 結果

1. 過疎地域における看護職者数の分布(図1)

過疎地域における看護職者数の分布状況は図1のとおりである。過疎地域27町村全体の看護婦士数は210人, 准看護婦士数は213人, 保健婦士数は54人, 助産婦数は0人であった。また27町村の看護職者数は各町村によって差があり, 看護婦士は0～60人, 准看護婦士は0～48人, 保健婦士は0～6人であった。また看護婦士のいない町村は春日村, 洞戸村, 明宝村, 串原村の4村であった。准看護婦士のいない町村は朝日村の1村であった。保健婦士のいない町村は, 坂内村の1村であった。

2. 看護職者の就業する施設数の数量的現状(表2, 表3, 図2, 図3)

1) 過疎地域とそれ以外の地域の施設数の比較

看護職者の就業する施設数を, 過疎地域とそれ以外の地域に区分し人口比(人口10万対)を算出して比較した。その結果は表2のとおりである。病院数は過疎地域8.35・それ以外の地域5.29であった。診療所数は過疎地域87.10・それ以外の地域67.40であった。訪問看護ステーション数は過疎地域4.77・それ以外の地域3.41で

あった。介護老人保健施設数は過疎地域では3.57・それ以外の地域2.52であった。社会福祉施設数は, 過疎地域141.98・それ以外の地域49.11であった。過疎地域は人口が少ないので, いずれの施設も人口10万対でみると, それ以外の地域よりも施設数は高値となっていた。

次に看護職者の就業する施設数を, 過疎地域とそれ以外の地域に区分し面積比(過疎地域の面積平均180km²対)を算出して比較した。その結果は, 表3のとおりである。病院数は, 過疎地域0.25・それ以外の地域3.21であった。診療所数は, 過疎地域2.63・それ以外の地域40.93であった。訪問看護ステーション数は, 過疎地域0.14・それ以外の地域2.07であった。介護老人保健施設数は, 過疎地域0.11・それ以外の地域1.53であった。社会福祉施設数は, 過疎地域4.29・それ以外の地域29.83であった。以上のように面積180km²比でみると, 過疎地域ではいずれの施設も著しく少なくなっていた。

2) 自治体の人口規模別にみた施設数

自治体を人口規模別に区分し, 施設数を人口比(人口10万対)で比較した。その結果は, 図2のとおりである。診療所と社会福祉施設は人口規模が小さい地域ほど多くなる傾向にあったが, その他の施設では大差はなかった。

3) 自治体の面積別にみた施設数

自治体を面積別に区分し, 施設数を面積比(50km²対)で比較した。その結果は, 図3のとおりである。どの施設も面積が広くなるほど少なくなる傾向にあり, とりわけ200km²以上で著しく少なく, 社会福祉施設・診療所ではその傾向が顕著であった。

3. 看護職者の数量的現状(表4, 図4, 図5)

1) 過疎地域の町村の平均人口規模でみた看護職者数

施設の種類の別に看護職者数を出し, それを過疎地域と

表2 過疎地域とそれ以外の地域における看護職者の就業する施設数(人口比)

	病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護老人 保健施設	社会福祉施 設(*特養)	計
過疎地域	7	73	4	3	119(3)	206
	8.35	87.10	4.77	3.57	141.98	245.79
それ以外 の地域	107	1364	69	51	994(51)	2586
	5.29	67.40	3.41	2.52	49.11	127.77
岐阜県	114	1437	73	54	1113(54)	2791
	5.41	68.18	3.46	2.56	52.81	132.42

※1. 上段: 施設数/下段: 人口10万対の施設数

※2. *特養: 特別養護老人ホームの数

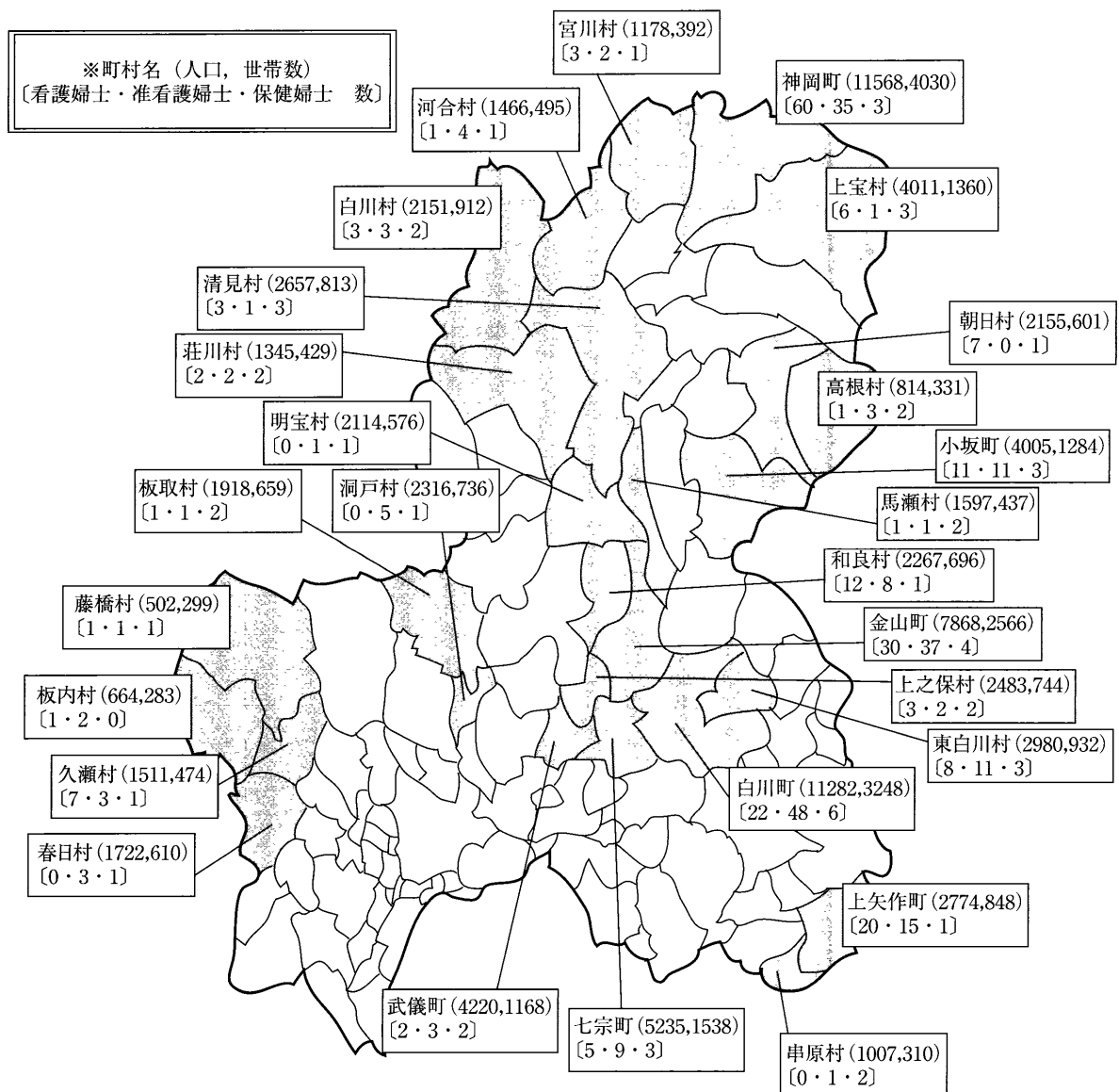


図1 過疎地域における看護職者数の分布

表3 過疎地域とそれ以外の地域における看護職者の就業する施設数 (面積比)

	病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護老人 保健施設	社会福祉施 設(*特養)	計
過疎地域	7	73	4	3	119(3)	206
	0.25	2.63	0.14	0.11	4.29	7.42
それ以外 の地域	107	1364	69	51	994(51)	2585
	3.21	40.93	2.07	1.53	29.83	77.61
岐阜県	114	1437	73	54	1113(54)	2791
	1.94	24.41	1.24	0.92	18.9	47.41

※1. 上段:施設数/下段:面積180km²対の施設数

※2. *特養:特別養護老人ホームの数

※3. 過疎地域の平均面積は約180km²である。ここではその値を基準とし、180km²内の施設数を比較した。

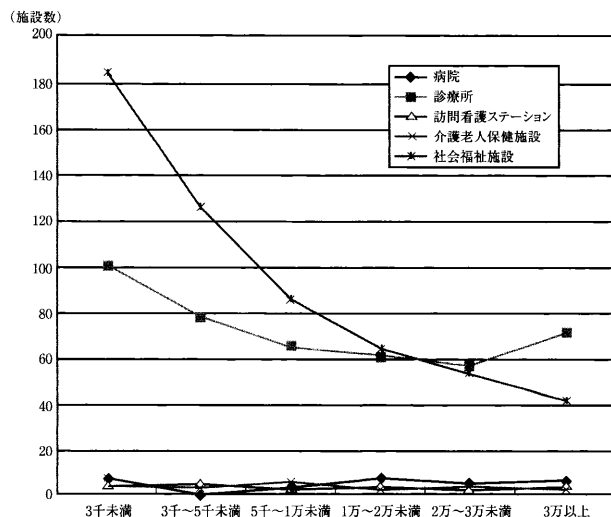


図2 人口区分別看護職者の就業する施設数 (人口10万対)

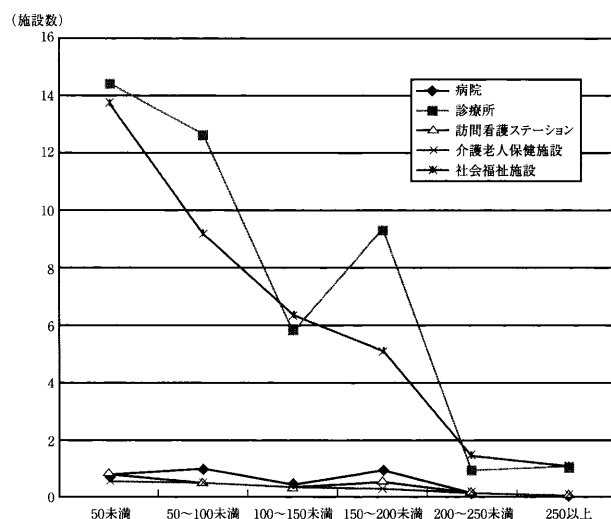


図3 面積区分別施設数 (面積50km²対)

それ以外の地域に区分し、人口3000人（過疎地域の平均人口）あたりの看護職者数で比較した。その結果は、表4のとおりであった。

(1) 病院・診療所：病院の看護職者数は、過疎地域は8.34・それ以外の地域は15.45、診療所の看護職者数は、過疎地域は4.19・それ以外の地域は5.40であった。

(2) 訪問看護ステーション：過疎地域は0.47・それ以外の地域は0.42であった。

(3) 介護老人保健施設：過疎地域は0.32・それ以外の地域は0.80であった。

(4) 社会福祉施設：過疎地域は1.61・それ以外の地域は0.72であった。

(5) 市町村保健婦：過疎地域は1.90・それ以外の地域は0.61であった。

過疎地域はそれ以外の地域と比較すると病院で就業する看護職者数が少なく、社会福祉施設・市町村で就業する看護職者数が多かった。

2) 自治体の人口区分別施設種別に見た看護職者数

施設の種別別に看護職者数を出し、それを自治体の人口規模で区分し、人口3000人（過疎地の平均人口）あたりの看護職者数で比較した。その結果は、図4のとおりである。施設種別別にみると病院の看護職者数は多くなる傾向にあるが、その他の施設では変化はみられなかった。逆に市町村役場の看護職者数は少なくなっていた。

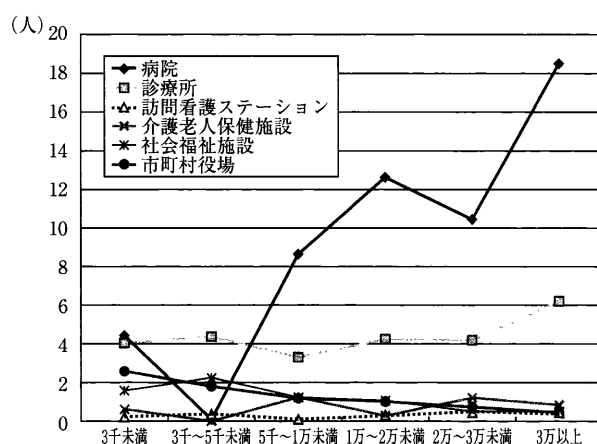


図4 人口区分別施設種別に見た看護職者数 (人口3千対)

3) 施設の種別別にみた看護婦士・准看護婦士の構成割合

結果は、図5のとおりである。

(1) 病院：過疎地域の看護婦士52.6%，准看護婦士47.4%，それ以外の地域の看護婦士は70.2%，准看護婦士は29.8%であった。

(2) 診療所：過疎地域の看護婦士39.3%，准看護婦士60.7%，それ以外の地域の看護婦士は31.3%，准看護婦士は68.7%であった。

(3) 訪問看護ステーション：過疎地域の看護婦士93.8%，准看護婦士6.2%，それ以外の地域の看護婦士は88.1%，准看護婦士は11.9%であった。

(4) 介護老人保健施設：過疎地域の看護婦士77.8%，准看護婦士22.2%，それ以外の地域の看護婦士は35.9%，准看護婦士は64.1%であった。

(5) 社会福祉施設：過疎地域の看護婦士40.4%，准看護婦士59.6%，それ以外の地域の看護婦士は49.2%，准看護婦士は50.8%であった。

表4 岐阜県の過疎地域とそれ以外の地域における施設種類別にみた看護職者数

	病院	診療所	訪問看護 ステーション	介護老人 保健施設	社会福祉 施設	市町村役 場(*)	計
過疎地域	234	117	16	9	47	54	477
	8.34	4.19	0.47	0.32	1.61	1.90	16.82
それ以外 の地域	10466	3684	290	544	503	408	15895
	15.45	5.40	0.42	0.80	0.72	0.61	23.40
岐阜県	10700	3801	306	553	550	462	16372
	15.16	5.34	0.44	0.78	0.76	0.65	23.13

※1. 上段：看護職者数／下段：人口3000対の看護職者数

※2. 市町村役場(*)：市町村の行政サービスに従事する保健婦士数とする。

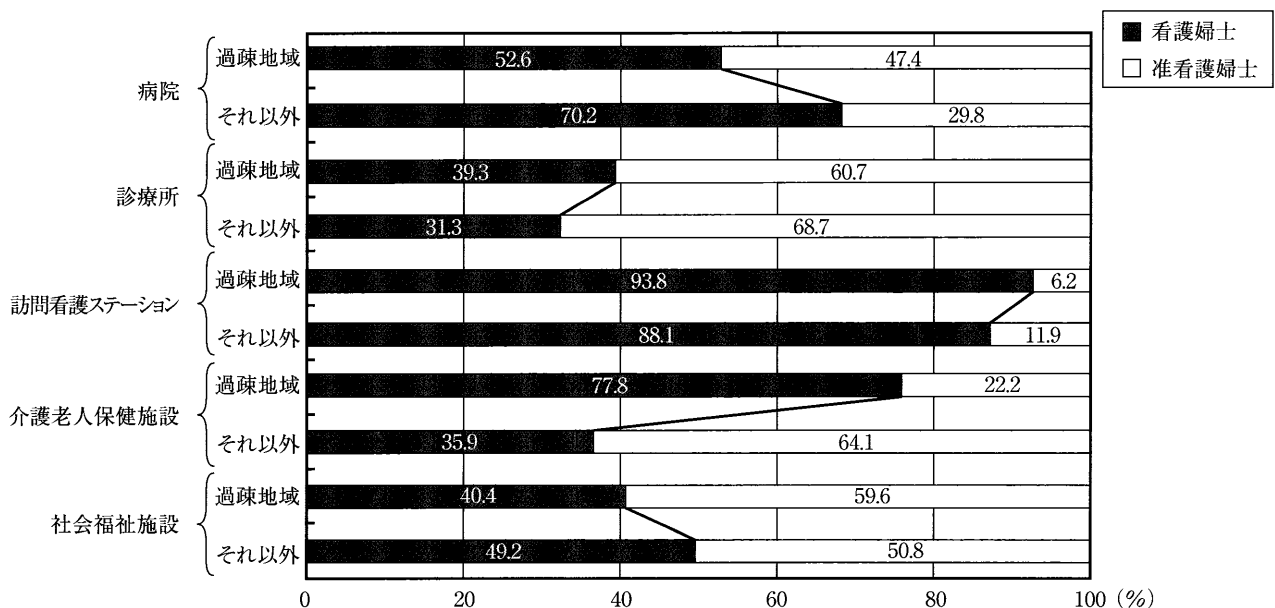


図5 施設の種類の別みた看護婦士の構成割合（過疎/それ以外の地域別比較）

准看護婦士の割合が、50%以上であったのは、過疎地域では診療所、社会福祉施設であり、それ以外の地域では、診療所、介護老人保健施設、社会福祉施設であった。過疎地域、それ以外の地域とも少なかったのは、訪問看護ステーションであり、過疎地域の介護老人保健施設では准看護婦士の割合が非常に少なかった。

Ⅲ. 考察

1. 岐阜県内の過疎地域27町村の姿

岐阜県の人口の3.9%を占める過疎地域27町村の平均的姿は、人口3,104人、世帯数978世帯、面積179.74km²である。面積180km²当たりの施設数は7.42であり、病院が0.25、診療所が2.63、訪問看護ステーションが0.14、介護老人保健施設が0.11、社会福祉施設が4.29存在しているという現状である。

施設数では、過疎地域はそれ以外と比較すると、単位面積当たりの施設数が少ないため、保健医療福祉施設を利用するまでの距離が長いということが推測される。

さらに看護職者数は人口3000人に対して16.82人であり、病院に8.34人、診療所に4.19人、訪問看護ステーションに0.47人、介護老人保健施設に0.32人社会福祉施設に1.61人、市町村役場に保健婦士が1.90人就業していることとなる。その看護職者数は過疎地域内の27町村の中でも病院のある町村には多いが、看護婦士・准看護婦士合わせて1人という村も2村あり、かなり差があるといえる。

2. 施設の種類の別みた看護婦士・准看護婦士の構成割合

過疎地域での施設別の准看護婦士の割合は、病院・福祉施設では過疎地域以外よりも高かったが、その他の施

設ではむしろ低くなっていた。診療所においては、過疎地域・それ以外の地域に拘らず、岐阜県下全域の准看護婦士の割合が高く、診療所での准看護婦士の担う役割が大きいことが推測された。

3. 自治体の人口規模別看護職者数

全体的には、人口規模が大きくなると看護職者が多くなる傾向にある。人口3000人以上～5000未満の自治体の看護職者数が少なかったのは、病院数が0で看護職者が病院にいなかったことが影響していると考えられる。

(受稿日 平成14年2月25日)